

令和3年度 掛川社会福祉事業会 事業報告書

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、感染状況に応じた対応を模索しながらの事業実施となりました。2年度に経験しましたマスクや消毒液の枯渇による事業実施への不安感は市場や流通の回復により軽減致しましたが、日常の使用量と併せ、発生時に備えた備蓄のための調達経費の増大は、経営面にも影響致しました。

新型コロナウイルス感染症との共生はもはや避けられず、感染の不安を常に抱きながらも、コロナ以前の日常を取り戻していく取組みに試行錯誤で臨み、利用者の不安感や孤独感の払拭に留意して参りました。施設、事業所内の衛生管理はもとより、職員には、感染予防のための行動自粛を求めて参りましたが、家庭内感染による罹患は避けられず、年度末にはききょう荘と通所介護事業所で複数陽性者が発生し、一定期間の事業中止措置を取らざるを得ない状況となりました。

介護保険事業における介護職員の処遇改善のために、国策として令和4年2月から支援補助金制度が施行され、法人内でその支給方法を協議して参りました。最低賃金の引上げによる法改正に伴う、現行給与規程における賃金額抵触の課題を同時に解消すべく、且つ介護職員と他職種との処遇格差の改善を骨子として対応方法をまとめ、令和4年4月からの給与規程の改正に繋げることができました。

また、将来に渡る事業継承を目的に法人組織編成に取り組み、役職ポストの増設、集約とかけがわ苑施設長の交代人事を実施致しました。

法人を挙げて取り組むべき課題である、人材確保、育成・定着、地域貢献、防災対応については委員会形式で活動を進め、それぞれ具体的取組の実施により一定の実績を残すことができました。

なお、法人事務事業実施状況は下記の通りです。

(1) 評議員会の開催

◇令和3年6月21日（第1回定時評議員会）

議案第1号	令和2年度掛川社会福祉事業会計算書類及び財産目録の承認について
議案第2号	理事・監事の選任について
報告第1号	令和2年度掛川社会福祉事業会事業報告について
報告第2号	監事監査報告について
報告第3号	社会福祉充実残額について

◇令和3年12月24日（第2回評議員会）

議案第1号	令和3年度掛川社会福祉事業会補正予算について
-------	------------------------

◇令和4年3月23日（第3回評議員会）

- 議案第1号 令和3年度掛川社会福祉事業会補正予算について
- 議案第2号 令和4年度事業計画について
- 議案第3号 令和4年度掛川社会福祉事業会予算について
- 議案第4号 理事の選任について
- 議案第5号 監事の選任について

(2) 理事会の開催

◇令和3年6月2日（第1回理事会）

- 議案第1号 令和2年度事業報告（案）について
- 議案第2号 令和2年度掛川社会福祉事業会決算及び財産目録（案）について
- 議案第3号 評議員選任・解任委員会の招集日及び提出議案について
- 議案第4号 理事・監事候補者の選任案について
- 議案第5号 顧問候補者の選任案について
- 議案第6号 評議員候補者の選任案について
- 議案第7号 定時評議員会の招集日程及び提出議案について
- 報告事項 理事長業務執行報告

◇令和3年6月21日（第2回理事会）

- 議案第1号 理事長の選定について

◇令和3年12月15日（第3回理事会）

- 議案第1号 令和3年度掛川社会福祉事業会第1回補正予算案について
- 議案第2号 第2回評議員会の招集日程及び提出議案について
- 議案第3号 規程の一部改正案について
- 議案第4号 令和4年度養護老人ホーム掛川市ききょう荘給食業務委託業者選定について
- 報告事項 理事長業務執行報告（6月～8月）
- 報告事項 理事長業務執行報告（9月～11月）

◇令和3年2月15日（第4回理事会）

- 議案第1号 規程の一部改正案について
- 議案第2号 第3回評議員会の招集日程及び提出議案の承認について
- 議案第3号 特別養護老人ホームかけがわ苑施設長の退任について
- 議案第4号 特別養護老人ホームかけがわ苑施設長の選任について

議案第 5 号 令和 4 年度事業計画及び予算案の策定、方向性と概要について

◇令和 4 年 3 月 15 日（第 5 回理事会）

議案第 1 号 令和 3 年度かけがわ苑拠点区分積立金について

議案第 2 号 令和 3 年度掛川社会福祉事業会補正予算案について

議案第 3 号 令和 4 年度かけがわ苑拠点区分積立金の積立及び取崩について

議案第 4 号 令和 4 年度ききょう荘拠点区分前期支払資金残高の本部拠点区分への繰入について

議案第 5 号 令和 4 年度事業計画案について

議案第 6 号 令和 4 年度掛川社会福祉事業会予算案について

議案第 7 号 規程の一部改正について

議案第 8 号 理事及び監事候補者選任について

議案第 9 号 評議員会の追加議案について

報告事項 理事長業務執行報告（12 月～2 月）

(3) 監事による監査の実施

決算監査（経理監査・業務監査） 令和 3 年 5 月 31 日 実施

期中監査（経理監査・業務監査） 令和 3 年 10 月 25 日 実施

社会福祉法人の事務事業の執行状況と経理・財産の状況について、監事による監査を実施し事業の適正を期しました。

(4) 評議員選任解任委員会の開催

令和 3 年 6 月 21 日 新評議員（2 名）の選任

(5) 掛川市による社会福祉法人監査

令和 3 年度における受審実績なし

(6) 登記関係

資産の変更登記 令和 3 年 6 月 22 日 （797,125,838 円）

理事長登記 令和 3 年 6 月 22 日

(7) 建設資金等借入金償還関係

施設建設等資金としての島田掛川信用金庫からの借入、償還状況は資料 1（参照）の通りです。

(8) 寄付金等の受入状況

現金 941,000 円

物品（10 万円以上） 24 時間テレビ福祉車両寄贈 2,880,575 円

(9) 職員の動向（年間）

正規職員新規採用者数	正規職員退職者数	非常勤職員新規採用者数	非常勤職員退職者数
4 人	2 人	5 人	7 人

(10) 法人事業所利用者事故（医療機関受診ケース）発生数 20 件

(11) サービスに係る苦情受付件数 28 件

(12) 法人本部所管委員会活動

① 広報・人材確保対策検討委員会

会議開催 年 14 回

主な活動実績

- ・ 御前崎市リターン就職応援プロジェクトへの参加
（企業情報サイトへの事業所登録）
- ・ 有効な求人媒体、方法の調査研究
- ・ 法人内事業所職員への求人案内
- ・ 広報誌「笑顔のわ」の編集、発行
- ・ ホームページの内容充実

② 地域貢献事業検討委員会

会議開催 年 6 回

主な活動実績

- ・ 掛川市社会福祉協議会職員との交流会
- ・ 社会福祉協議会合同研修会参加
- ・ 掛川市社会福祉協議会「生活困窮者支援事業」への参画（フードバンク支援）
- ・ 在宅要支援者への移動手手段支援に係る調査研究

③ 防災委員会

会議開催 年 6 年

主な活動実績

- ・ 豪雨災害情報の提供による防災意識の啓発
- ・ 職員緊急通報システム(ANPIC)の浸透に向けた運用訓練の実施
- ・ デイサービスセンター福祉避難所運営マニュアルの作成

- ・防災資機材整備状況点検事業所相互ラウンドの実施
- ・防災のための事業所取組みの実態調査

④人材育成検討委員会

会議開催 年7回

主な活動実績

- ・法人人材育成指針の作成
- ・WEB研修システムの導入
- ・人材育成に向けての出張復命書の活用実態アンケートの実施
- ・プリセプター制度の運用実態調査アンケートの実施
- ・職員人材育成に向けた指導職（補佐職）研修の開催
- ・新入職員採用時研修の企画実施

令和3年度 特別養護老人ホームかけがわ苑 事業報告書

総括

特別養護老人ホームかけがわ苑は、利用者及び職員から新型コロナウイルスの感染者が発生しないよう、感染褥瘡防止委員会を中心に予防対策の取組み強化に努めました。ウイルス変異株による感染力の強さから、年度末に職員2名及び利用者1名の陽性者が発生しましたが、事業継続計画（BCP）に基づきながら速やかに緊急招集会議を開催し、感染拡大を防止する措置を講じました。陽性利用者は施設内での療養となりましたが、適切なゾーニングやケアの実施等、感染対策を徹底したことでクラスター発生を防ぐことができ、職員による日頃の対策意識やシミュレーション訓練が如何に重要であるか実証されました。

利用者処遇につきましては、コロナ禍における家族等とのコミュニケーション方法を模索し、感染状況を確認しながら、オンライン面会や窓越し面会、感染対策を講じながらの外出や対面面会を実施いたしました。また、施設内では敬老会や季節行事、療法レクリエーションを感染対策や工夫を凝らして実施するとともに、「利用者の声・想い」または「私の暮らしシート」から導いたニーズをもとに、食事やリクエスト企画を立案・実施することでコロナ禍でも楽しみのある日常の提供や生活機能の向上、閉塞感の緩和に努めました。

サービスの質向上に向けての取組みにつきましては、福祉サービス第三者評価事業を受審するための準備（プレ実施）をすすめるとともに、介護報酬の改定によって新たに加わった科学的介護推進体制加算等の算定ができるよう、LIFEの導入及び厚労省へのデータ提出を行い、3月からの算定を実現いたしました。

地域貢献活動につきましては、コロナ禍での活動として、掛川社会福祉協議会を通じた食糧支援「フードバンク」の取り組みを継続実施いたしました。

1. 利用者の状況について

アー1) 利用者実績（在籍率：年間平均97.4%）

定員 80名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ日数	2347	2372	2276	2373	2437	2346	2413	2388	2439	2476	2226	2340
在籍率	97.8	95.6	94.8	95.7	98.3	97.8	97.3	99.5	98.4	99.8	99.4	94.4

※小数点第2位以下切り上げ計上

アー2) 入退所及び入退院状況（前年度）

新規入所者数	退所者数	入院実人数	延べ入院日数	延べ外泊日数	施設内看取り実績
30人 (22人)	31人 (23人)	31人 (14人)	118日 (145日)	0日 (0日)	15件 (6件)

※看取りは同意書を取り交した後に死亡した件数

ア－ 3) 新規入所申込者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	2	5	6	3	7	5	6	6	10	2	3	2	57

ア－ 4) 要介護度の分布

介護度	1	2	3	4	5	平均介護度
4月(期首)	0	1	18	27	32	4.2
3月(期末)	0	1	20	20	36	4.1
比較増減	0	0	2	△7	4	△0.1

ア－ 5) 保険者に対する事故報告該当件数

年間 11件(前年度 15件)

内訳は、骨折事故 3件、打撲事故 1件、受傷により縫合処置した事故 3件、

内出血・血種等 3件、窒息 1件となっております。

2. 家族等関係者及び地域との連携について

ア－ 1) 家族との連携(前年度)

面会者延べ人数	1日平均面会者数
213人(91人)	0.58人(0.24人)

厚労省からの通達と静岡県の新型コロナウィルスの感染状況や医療ひっ迫状況等の国評価レベルの状況にて新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、R3.10/18～R4.1/23 対面面会を実施致しました。R3.12/29～R4.1/3 は外出も再開出来ました。

代替面会としては映像端末を使用したリモート面会をご家族に案内をして、10%程のご家族が利用されました。

ア－ 2) 地域等との連携(前年度)

ボランティア 受入実人数	ボランティア 受入延べ人数	ボランティア 1日平均受入人数	新規ボランティア 実人数(再掲)	実習生受入 延べ人数
0人 (0人)	0人・0団体 (0人・0団体)	0.00人 (0.00人)	0人0団体 (0人0団体)	22人 (0人)

ア－ 3) 優先入所検討委員会 3回開催(7月27日・11月30日・3月22日)

令和4年3月31日現在、入所申込者(待機者)は要介護3未満の申込者を含め91名となっております。

在宅での介護が困難な男性の入所希望者が減少していることから、男性優先順位名簿を5名、女性優先順位名簿を15名とし、入所優先入所検討委員会において慎重に入所順位を精査・決定しました。

入所申込待機者への入所案内時に、入所保留またはキャンセルをする申込者が多いことを考慮し、待機者リストの適正管理に努めました。早めに優先入所順位上位者へ診療情報提供書の作成依頼等に努めましたが、退所が重なったこと、診療情報提供書提出の遅延により空床日数が増え、年間目標在籍率を1.6ポイント下回る結果となりました。

3. 相談援助部門

新型コロナウイルスの影響を受けながらも感染防止対策を講じながら窓越し・対面面会・外出を実施し、不自由ながらもご家族との交流の場を提供することが出来ました。また、オンライン面会はコロナ禍での定着した面会となりました。

また、昨年度同様に1年間を通じて利用者の写真撮影を積極的に行い、定期的に利用者の写真を活用したカレンダーを作成し、ご家族にお渡しすることで利用者を身近に感じて頂くことに役立てました。

また新型コロナウイルス感染の脅威下もあり、ボランティア活動は受入れを中止しましたが、実習生につきましては、学校の感染対策の協力を得ながら単位実習の受け入れを行いました。

入所相談については、新型コロナウイルス感染の観点から簡素化に努め、来苑された方の健康チェック実施、パーテーションやフェイスシールドを使用した説明を実施し、郵送やメールでの受け付けも行いました。

利用者の権利擁護の観点から成年後見人制度の申請が必要と判断した事例について関係機関等と連携して手続きを進めて参りました。また虐待防止についても「不適切ケア」を日々の業務において意識し啓発に努めました。

4. 栄養管理部門

ご利用者個別の低栄養状態のリスクに応じたモニタリング期間での状態観察と、状態に応じ安心・安全な食事形態を多職種と連携し、検討を行い提供いたしました。

サービスの質の向上と楽しみのある食事提供として、給食委託会社の食事内容にかけがわ苑独自で工夫を加え、施設生活で少しでも変化を感じられるような内容に調整を行いました。また、利用者の声・想いなどを活用し、ご利用者の要望に応じた嗜好を可能な限り献立に反映させ、好評を頂くことが出来ました。季節や行事に合わせた手作りおやつも毎月提供出来ました。

5. 介護・看護部門

昨年と引き続き、コロナ禍ではある中で、その人らしい日常の暮らし、利用者の声や想い

を一層大切にするため、「私の暮らしシート」「利用者の声・想い」取組み、活用の定着が図られてきております。「私の暮らしシート」につきましては、サービス担当者会議にて、保証人様へ向けて説明を行いました。

また、外部からウイルスが持ち込まれぬよう、職員の健康管理、標準予防策の徹底、疑いのある新規入所者には抗原検査を実施し水際対策の実施に努めました。新型コロナウイルスの変異株の感染力増大により、職員 2 名、利用者 1 名の感染者が発生しましたが、初動対応訓練実施でのシミュレーション実施、マニュアルに沿った研修を実施したことで職員の適切な対応が図れたことにより、クラスターを出さず収束することが出来ました。

褥瘡・拘縮防止ケアへの取り組みについては、共通するポジショニングの重要性に着眼し、計画書を作成し状態に即したケアの実践を行って参りました。褥瘡・拘縮発生に関する研修と適切な対処方法の確立、褥瘡・拘縮予防に有効な介護用品の選定と多岐にわたる項目の取り組みにより改善に努めました。

介護報酬改正があり、新たな褥瘡加算取得と LIFE の導入により、統一した褥瘡評価が必要となりました。褥瘡ケア計画書の記入を継続するとともに、DESIGN-R での評価を行い早期の褥瘡改善に努めました。

6. 行事余暇活動等の実施について

アー 1) 余暇活動参加実績

	実施回数	備考
季節活動等	3 回	七夕、正月、節分、
慰問	0 回	コロナ禍により中止

アー 2) 主要行事開催実績

	実施回数	備考
納涼縁日	1 回	各フロア開催
敬老会	1 回	各フロア開催
クリスマス会	1 回	各フロア開催

7. 防災対策実施状況

- ・年間訓練実施回数（フロア） 30 回
- ・総合防災訓練 2 回

8. サービスの質の管理及び向上への取り組み状況

- ア) 内部研修開催実績 年 26 回
- イ) 外部研修参加実績 年 21 回（WEB 研修受講含む）
- ウ) 施設内委員会活動実績（一部 介護保険法規定）

委員会名	会議開催	主な活動内容

身体拘束・事故・虐待防止委員会	各 12 回	事故検証（再発防止策の実施状況等）、内部研修の開催、拘束適用の可否判断と廃止への意識啓発
感染褥瘡防止委員会	12 回	新型コロナウイルス感染対策、感染・褥瘡予防の啓発、褥瘡予防ケア計画書の更新、除圧クッションの購入、各感染症マニュアルの作成、内部研修の開催、機能向上型エアマットの更新
サービス向上委員会	12 回	運営指針の作成、内部研修の開催、外部評価の実施（評価結果についての改善）、第三者評価受審準備

9. 地域交流としての取り組み状況

内容	実施回数	主な活動内容
ふれあい広場	0 回	コロナ禍で中止となる。
第 5 地区文化祭	0 回	コロナ禍であり辞退する。

令和3年度 かけがわ苑 短期入所生活介護事業所 事業報告書

総括

今年度のかげがわ苑短期入所生活介護事業所は、新型コロナウイルス感染症への感染対策を講じながら、安心してご利用できるようサービス提供を行ってきました。しかし、年間稼働率は83.5%という厳しい結果となり、目標稼働率の90%と比較し大きく下回る結果となりました。

目標稼働率を下回った主な要因としては、市内の入所系サービスが充実し、以前より施設に入り易くなったことで定期的な継続利用者及び長期利用者が入所系サービスへ移行したことが考えられます。それにより予約キャンセルの数が膨らみ、前年度と比較して約2倍の数に伸びた新規利用者であっても埋め合わせが困難でありました。

そのような中、当事業所は、常に利用者・家族の思いに寄り添った対応に心掛けながら、医療的ケアや長期利用を必要とされる方、緊急利用を必要とされる方に対し、社会福祉法人に求められるセーフティーネットの機能を果たせるよう積極的な受入れをして参りました。

1. 利用実績

アー1) 月間状況 ※平均利用者数は1日あたりの利用者数

定員7人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	6.3	6.2	6.0	5.3	5.7	4.9	5.7	6.1	5.5	5.8	6.7	6.6
利用実人数	22	22	18	15	18	18	23	24	23	20	21	23
延べ人数	164	189	178	157	176	152	175	182	170	180	187	202
平均介護度	2.5	2.9	3.0	2.9	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.6	2.6	2.6
稼働率(%)	89.1	87.1	84.8	72.4	81.1	70.1	80.7	86.7	78.4	82.9	95.4	93.1

※小数点第2位切り上げ計上

アー2) 年間状況(前年度)

利用者延べ人数	1日当たり 平均利用者数	新規契約者数	平均介護度	年間稼働率
2,135人 (2,309人)	5.9人 (6.3人)	29人 (16人)	2.7 (3.3)	83.5% (90.6%)

※小数点第2位切り上げ計上

ア－ 3) 年間介護度別延べ人数 (前年度)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
192 人 (29 人)	450 人 (373 人)	1236 人 (1316 人)	196 人 (76 人)	61 人 (520 人)
163	27	△80	120	△459

ア－ 4) 年間性別割合 (前年度)

男性	女性
14.0% (9.4%)	86.0% (90.6%)

ア－ 5) 年間空床利用 (前年度)

特養空床数	空床利用数
767 床 (451 床)	7 床 (26 床)

※特養空床は退所・入院・外泊時に発生、外泊加算算定期間中を含む。

空床利用に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、特養入所者への蔓延リスクを低減させるため、令和 3 年 1 月より多床棟の空床利用は中止し、従来型個室のみの対応としております。

イ－ 1) 保険者に対する事故報告件数 (医療機関受診を必要とする程度の事故)

年間 1 件 (前年度 2 件)

【発生日】 令和 4 年 2 月 14 日 【介護度】 要介護 2 【年齢性別】 92 歳女性

【概要】 大きな音と利用者様の声があったので様子を見に行くと、居室前で右側臥位の状態で倒れているのを発見する。腰と頭を打ったもよう。その後、痛みの訴え強く医務、介護と相談し受診。レントゲン撮影の結果、腰椎圧迫骨折の診断を受けています。

2. 家族・関係機関との連携状況

- ・サービス担当者会議参加回数 4 回

前年度と同様に今年度も、新型コロナウイルス感染症発生予防措置として、ケアプラン更新時のサービス担当者会議は開催されず、書面照会で情報共有する事業所が多く、前年の 9 回と比較し担当者が集合しての開催数はさらに減少しています。サービス担当者会議実施に際しては、ご利用されている際の支援に対する報告がより詳細に伝えることが出来るように、利用者ケアに主として携わる介護職員が事前資料を作成し、感染予防対策として、会議には利用者と直接関わる介護職員等を避け生活相

談員が代理出席しました。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

・新型コロナウイルス感染症対策の継続

職員には正しい手洗い・消毒・マスクの着用、フェイスシールドの装着等の標準予防策の徹底に努めました。また、外部から感染症が持ち込まれることがないように、感染褥瘡防止委員会と連携しながら利用者様には、施設からの依頼事項及び注意喚起情報を文書等で発信しました。

外出レクリエーションについても令和3年度は感染状況を踏まえ、実施を見合わせましたが、当初年間計画で予定していた当苑の三大行事（納涼祭・敬老会・クリスマス会）やその他の季節行事については感染予防に配慮して実施しました。

・療法レクリエーションの実施

療法レクリエーションは2月から試行しています。取り組みが可視化できるように計画と報告を書式で残し、3月から本格的な実施を開始しました。月曜日から金曜日までの実施が可能でありご利用者の身体機能向上を考えた運動レクリエーション、認知機能の維持向上を目的とした学習レクリエーションを提供しています。

令和3年度 かけがわ苑 通所介護事業所 事業報告書

総括

新型コロナウイルス感染症の市中感染が拡大していく中、感染防止対策を強化する目的で、中東遠総合医療センターの感染対策管理部の認定看護師を招聘し、ゾーニング方法や現在行っている感染対応の確認及び指導を受け、一部改善を図ることができました。引き続き事業所での感染予防対応を図っていた中ではありましたが、市中感染の拡大に伴い、利用者、職員の双方で家庭内でのコロナ感染の影響を受けた結果、3月に3日間の休業を行なわざるを得ない状況となってしまった他、年間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響による利用者のキャンセルが多数見られました。

利用者サービスにつきましては、令和3年2月より認知症加算の再導入により認知症の専門的ケアの実施を行い、利用者が穏やかに過ごせる環境づくりに配慮いたしました。また、個別機能訓練におきましても看護師を中心とした個別の対応やフレイル対策を含めた体操等を取り入れ、利用者が積極的に取り組める内容に努めて参りました。

1. 利用者の状況について

介護及び予防給付対象利用者の利用実績は、1日当たりの定員30人に対し21.3人、利用率は71%でした。

ア-1) 通所サービス提供実績

平日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
介護平均人員	21.2	20.1	17.5	18.7	19.2	20.8	20.3	19.0	20.3	20.1	20.2	16.1	19.4
利用実績(延回数)	466	423	384	412	422	457	427	419	446	401	404	326	415.5
平均介護度(予防含む)	1.8	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.7	1.8	1.8	1.9	1.8	1.8	1.7
利用実績(予防人員)	7	7	8	8	8	7	7	6	8	7	7	6	7.1
利用実績(延回数)	33	36	49	47	42	39	45	48	52	43	40	42	43
利用率(予防含む)	75.7	73	65.7	69.7	70.3	75	75	70.7	75.3	74	74	54	71

*実施日数=月曜日から金曜日。ただし、1月1日～1月3日を除く

*利用率=月定員合計に占める月利用延人数合計の割合

ア-2) 年度内状況

年度内新規利用者数	年度内契約解除者数	体験利用者数	キャンセル数
21件	20件	18件	694件

※体験利用のうち12名がサービス契約締結に至りました。

※キャンセルの主な内訳

自己都合	148 件	体調不良	134 件	受診・入院	185 件
ショートステイ	34 件	コロナ関連	127 件	他サービス利用	5 件
その他	59 件				

・令和 2 年度に引き続き今年度もコロナ関連(利用控え・感染等)でキャンセルが増えました。

2. 家族・関係機関と連携状況

ア) 事業所便り(和顔愛語)の発行

年 1 回発行

イ) ボランティア受け入れ実績

年間受け入れ延べ人数 個人 0 件 団体 0 件

※コロナ市中感染状況を考慮し、令和 2 年度に続き今年度もボランティアの受け入れを中止しました。

3. サービス提供状況

ア) 認知症加算の対象者(日常自立度Ⅲ以上)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人数	14	12	10	10	10	10	10	11	8	9	10	10
割合	31.8	28.5	25.6	26.3	27.0	24.3	24.3	27.0	27.0	21.4	25.0	26.3

※加算条件：利用者の総数のうち認知症日常自立度Ⅲの方の割合が平均で 20%以上

4. 防災対策実施状況

年間訓練実施回数

10 回

利用者避難誘導訓練 4 回

訓練講話 2 回

職員防災研修 4 回

利用中の地震・火事・風水害に関連した防災訓練を実施しています。特養の総合防災訓練の応援訓練も行っております。

5. サービス管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年7回 開催

事故防止・身体拘束廃止・虐待廃止・新型コロナウイルス感染予防対策・サービス向上・防災についての研修を2ヶ月に1度開催し、職員の資質の向上に努めました。事故防止委員会ではエスケープ事故が2件あり、改善策としてキッチンの裏口の鍵の改修、通所と多目的ホールを繋ぐ渡り廊下庭にある施錠の確認を行い、事故防止に努めて参りました。

イ) 外部研修参加

年4回 参加

感染研修では新型コロナウイルスの情報をWEBで参加し、感染症防止への対策に役立てました。

ウ) 利用者・家族満足度アンケートの実施

年1回 実施

令和3年度 かけがわ苑 居宅介護支援事業所 事業報告書

総括

令和3年度の事業所運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症の予防対策を継続し、利用者宅を訪問する介護支援専門員が感染症の媒介者にならないよう、自らの行動自粛と体調管理を徹底し、居宅BCPに基づき業務に従事して参りました。

事業の主たる業務として位置付けられているサービス担当者会議や利用者自宅訪問によるモニタリング等においては、昨年度に引き続き、利用者様・ご家族様のご理解のもと感染防止対策を行いながら実施致しました。

ケアプラン作成の目標は年度当初は月160件でしたが、8月より遞減性の緩和にて月185件に変更となりました。全ての介護支援専門員が積極的に受入れを行いました。年間を通じ目標件数を達成することができませんでした。

また主任介護支援専門員研修に1名受講し、居宅内の介護支援専門員への指導力の向上を図ることで居宅全体のサービスの質をあげることを目指しました。ケアプラン作成管理に際しては相互牽制体制を保ち、適正なケアマネジメントを展開して参りました。職員各自専門職としての能力の向上に努め、包括支援センターと連携し、積極的に困難事例にも対応して参りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点によりオンラインでの研修が増えたことから、事業所内の環境を整え、情報収集と共有の場を積極的に設けて参りました。

1. 利用者の状況について

アー1) 居宅介護支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
計画作成数	162	166	163	160	170	176	170	164	172	177	170	164	2014	167.8
ケアマネ1人 当りの作成数	32.4	33.2	32.6	32.0	34.0	35.2	34.0	32.8	34.4	35.4	34.0	32.8	/	33.5

単位：人

年度内新規利用者数	年度内契約解約者数
63人	47人

※解約者の内訳 ①施設入所 19人 ②死亡 27人

③要支援状態への移行 0人 ④転居、事業所変更 0人

⑤その他 1人（サービス希望なし）

新規利用者につきましては、包括支援センターからの紹介が最も多かったものの、ご家族からの直接依頼も増加しました。

ア-2) 利用者の状況

単位：人

介護度	1	2	3	4	5	3～5の割合
4月(期首)	60	62	21	10	9	24.7%
3月(期末)	53	62	27	15	7	29.9%
比較増減	△7	0	6	5	△2	

※当月利用述べ人員の1日当たりの平均とし、小数点第2位を切り上げる。

イ-1) 介護予防支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
計画作成数	38	37	37	35	32	30	29	29	32	25	25	25	374	31.1
ケアマネ1人当たり	7.6	7.4	7.4	7.0	6.4	6.0	5.8	5.8	6.4	5.0	5.0	5.0		6.2

(総合事業対象者含む)

イ-2)

単位：人

年度内新規利用者数	年度内契約解除者数
3人	8人

※解約者の内訳 死亡 0名 介護給付への移行 8名

2. 受託事業の実施状況

介護認定調査実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
調査実施件数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3

介護認定調査につきましては、市内のコロナ感染状況を踏まえケアマネジャーが媒介者にならないよう受託件数は事業所内で検討し、実施しました。また介護保険認定期間(最長期間)が長くなったことにより、訪問調査の依頼が減少傾向にあります。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年7回開催

職員会議及び定例会議の中で、外部研修に参加した職員による内部研修(勉強会)を行い、職員への周知を図ることで資質向上に努めました。

イ) 外部研修参加実績

年間16回参加

新型コロナ感染症予防ため、介護支援専門員更新研修と他各団体からの研修にはオンラインにて参加しています。

ウ) 合同事例検討会

年 1 回

市役所にて例年 3 ヶ月に 1 度開催されていた事例検討会は、コロナ感染予防により開催方法が見直され、介護支援専門員連絡協議会研修部が年間計画を作成し、今年度は 1 回参加しました。

エ) その他

利用者アンケート 年 1 回実施

令和3年度 掛川市西部地域包括支援センター事業報告書

総括

要介護状態となった高齢者が住み慣れた自宅で暮らせるように地域が一体となってサポートを行う「地域包括ケアシステムの構築」がうたわれているなか、各職員が自身の専門性を発揮しながら高齢者をサポートして参りました。

令和3年度はコロナ禍でも可能な活動を模索し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置解除の時期を見計らいながら、健康講話やケアマネサロン「ほくほく」、5包括主催研修をリモートで開催いたしました。民生委員の協力のもと、通いの場を失った高齢者に対して生きがいデイサービスの紹介を行うとともに、認知症の方の自動車免許返納をはじめとした多様な相談に対しても多職種で連携を図りながら対応して参りました。

また法人内の地域貢献検討委員会では、社会福祉協議会生活支援係と生活困窮についてのディスカッションを行い、生活困窮の実態を把握しフード支援を行いました。

1. 総合相談支援

地域ニーズの「ワンストップサービス」の拠点として、ふくしあ入所団体と連携をとり、必要に応じて市役所（高齢者健康長寿課、福祉課）に繋げるなど、多岐にわたる機関と連携を図って参りました。総合相談件数は昨年比で210件減少致しました。

年間相談件数 4,445 件の相談内容内訳の上位は昨年同様、介護保険に関する事由が最も多く 1,480 件、続いて居宅サービスの利用調整が 1,180 件、ついで医療に関する相談が 1,143 件となりました。

<圏域内状況及び相談経路>

単位：件

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
高齢者数	6,120人	6,318人	6,584人	6,820人	6,951人	7,048人	7,213人
高齢化率	22.6%	23.3%	24.2%	25.1%	25.5%	26.0%	26.7%
職員人員	正規：3人 非正規：1人 人	正規：3人 非正規：1人	正規：3人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人 人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人 人
来所	482	495	567	693	643	521	421
電話	3201	3175	3336	4225	4224	2916	3096
訪問	1822	1787	1667	2239	1622	1218	928
合計	5506	5457	5570	7157	6488	4655	4445

<高齢者実態把握調査：新規把握者・追加再入力者・新規登録者>

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16	18	19	24	20	21	18	22	22	27	24	28	259

新規相談件数は、「介護保険」「医療」相談数が多数ありました。コロナ禍で病院の面会が出来ないため、癌末期でも在宅で看取りを望むケースが多く見受けられ、中東遠総合医療センターの入退院支援係や森町病院との連携を密に行いました。また介護保険申請に伴い、居宅介護支援事業所への引継ぎを行いました。

2. 権利擁護業務

1) 成年後見制度の活用・促進

権利擁護業務に関する相談は、137件で、昨年比45件減少している現状のなか、成年後見制度に繋がった事例は1件ありました。

2) 虐待事案への対応

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」等に基づき、高齢者虐待相談の窓口として通報を受け、速やかに実態把握（事実確認）を行い、事例に即した適切な対応に努めました。また「権利擁護連絡票」の活用をすることで支援者の高齢者虐待に対する予防意識を高めました。

◎市とのケース会議 2回実施

3) 困難事例への対応

生活困窮、複合的家族の事例については、専門職種が相互に連携し対応に努めました。

4) 消費者被害への対応

訪問販売等による消費者被害に対しては、掛川市消費生活センターと適宜、情報交換を行い、被害ケースに対応しました。

5) その他

圏域内の専門職（薬剤師・リハビリ職）権利擁護団体（弁護士・司法書士）との意見交換会等、多職種との「ネットワークの構築」は感染予防対策を整え、交流会を開催致しました。

<権利擁護相談件数>

単位：件

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
虐待	94	73	68	68	55	17	22
権利	82	121	220	181	146	182	137
消費	15	18	2	8	18	0	0
合計	191	212	290	257	219	199	159

<高齢者見守りネットワーク推進事業に関する協定事業所との連携>

回数： 1回

3. 包括的・継続的ケアマネジメント業務

高齢者が地域で生活できるようケアマネジャーなど様々な職種と連携し、個々の高齢者の状況や変化に応じて包括的継続的にマネジメントを行いました。

1) 包括支援センターをより身近な存在に感じてもらうために、職員紹介や業務報告等を掲載した包括だより「ほっこり」を年2回発行し医療機関、サービス事業所、居宅介護支援事業所などに配布致しました。

2) 地域の介護支援専門員に対して、電話や来所によりケアプラン作成技法、区分変更等の相談を受け、助言を行ないました。

3) 地域の介護支援専門員が抱える支援困難事例について、各種専門職種の職員や地域の関係者、関係機関と連携し、同行訪問、サービス担当者会議に参加し問題解決に向けて後方支援を行ないました。

4. 介護予防ケアマネジメント

①介護予防給付について

<介護予防支援費請求件数>

単位数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	9	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	77	6.4
委託	63	62	63	63	65	65	70	65	71	68	67	68	790	65.8
合計	72	69	70	69	71	71	76	71	77	74	73	74	867	72.2

<利用者の状況>

単位数：人

	要支援1	要支援2	合計
直営	28	49	77
委託	238	552	790

②第1号介護予防支援事業について

<介護予防ケアマネジメント請求件数>

単位数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	35	33	35	35	36	33	34	33	31	29	23	25	382	31.8
委託	45	43	39	41	39	35	38	43	38	39	39	38	477	39.7
合計	80	76	74	76	75	68	72	76	69	68	62	63	859	71.5

<利用者の状況>

単位数：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	合計

直営	368	0	14	382
委託	176	96	205	477

<介護保険改正に伴う総合事業導入後の直営・委託件数動向> 3月実績比較

	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防ケア マネジメント	件数	合計
直営	予防給付	10	30	予防給付	9	41	予防給付	6	31
	事業対象者	20		事業対象者	32		事業対象者	25	
委託	予防給付	57	89	予防給付	62	100	予防給付	68	106
	事業対象者	32		事業対象者	38		事業対象者	38	

5. その他

<個別地域ケア会議>

開催数： 13回（開催時期：随時）

内容：会議内容としては、経済困窮、本人又は同居家族精神疾患、複合的家族関係問題等、取り上げました。

<地域ケア会議>

開催数： 7回 開催時期：（7～10月懇話会・3月）

内容：懇話会では民生委員に、ふくしあ団体、社会資源である生きがいデイサービスの説明を行いました。その他では民生委員が介入した事例の紹介、課題検討等の情報収集と意見交換を実施。懇話会以外での地域ケア会議では、認知症独居の方の地域との見守り体制について情報交換をし、支援間のネットワークの構築を図りました。

<相談協力員懇話会>

開催数： 6回（開催時期：7～10月）

内容：ふくしあ団体にも参加していただき、各団体の役割、介護保険、社会資源として生きがいの説明を行いました。コロナ禍で活動に対して不安があった民生委員と顔の見える関係を築き、ケースについての意見交換を行いました。

<生活支援体制整備事業に関する取り組み>

◎掛川市地域支え合い推進協議会

開催数： 0回

◎生活支援コーディネーター（SC）との連携

開催数： 0回

<ケアマネサロン活動>

開催数： 1回

内 容：感染対策を講じながら、西部圏域の居宅介護支援事業所と法人内居宅介護支援事業所の少人数で開催し、社会資源の情報共有を行いました。

<事業所連絡会>

開催数： 2回（全体会2回）

内 容：コロナ禍により市役所からの連絡事項と2月には居宅部会をWEBにて開催され参加を致しました。

<事例検討会>

開催数： 2回

内 容：市内居宅介護支援事業所を6グループに分け、少人数で開催しました。

<介護支援専門員連絡協議会>

開催数： 6回

内 容：地域連携部に所属し、サービス事業所とケアマネとの連携について、情報交換のやり方など話し合いました。

<地域密着型サービス事業所の運営推進会議>

開催数： 0回

内 容：書面での報告のみ（家代の里グループホーム）

<健康教育等講話>

開催数： 1回

内 容：第4民児協で認知症の理解と事例報告、ケアパス、高齢者見守りネットワーク、広報誌の周知を行いました。

<地域包括支援センター専門職会議>

開催数： 16回（保健師：5回 社会福祉士：5回 主任ケアマネジャー：6回）

内 容：専門職ごとの情報交換及び課題検討

<申請手続き>

地域包括支援センターは「身近な地域の窓口」として、申込者の意向を踏まえ、介護保険サービス及び福祉サービスが円滑に提供されるために必要な申請が行われるよう援助致しました。今年度は相談協力員懇話会で生きがいデイサービスの周知を行い、新規申請が多数ありました。

(件数)

住宅改修費支給申請書	1	生きがい活動支援申請書関連	22
緊急通報システム関連	0	配食サービス申請書関連	12

(

<職員研修>

15回 WEB研修が主でしたが、専門職の質の向上のために研修に参加しました。

【認知症総合支援事業】

●総合相談

地域包括支援センターの相談件数 4,445 件のうち 324 件が認知症に関する相談でした。相談者の内訳は本人・家族からの相談が約 2 割を占め、次いで医療機関（認知症疾患センター）88 件でした。

今年度は、認知症による免許返納、免許返納後の居場所等についての相談などがあり、関係機関と情報共有を図りながら対応して参りました。

●ケース会議

◎認知症初期集中支援チーム

実施件数： 0 回

内 容： 包括内で協議し、初期集中支援チームの対象ではないと判断したケースが 1 件ありました。

●ネットワーク会議

◎認知症施策推進会議

開催数： 4 回（市事業の協力）

内 容： 認知症に関する関係機関とのネットワーク会議

認知症初期集中チーム・認知症カフェ事業進捗報告会等実施

◎キャラバンメイト連絡会（市事業への参加）

開催数： 0 回

内 容： 実働はありませんでした。

◎認知症多職種研修会（市事業の協力）

開催数： 1 回

内 容： 認知症 ACP 研修として「認知症の人の日常生活、社会生活における意思決定支援」について講義、グループワークを行いました。

●広報啓発活動

◎「認知症」の支援体制の普及啓発講話

開催数： 0 回

内 容： 認知症ケアパスなどの周知活動は行いましたが、講話の開催はありませんでした。

◎認知症の理解のための普及啓発「認知症サポーター養成講座」

開催数： 3 回

内 容： 西郷小学児童児童に向けて、講座を実施しました。

◎認知症カフェ（市事業への協力）

実施件数： 7回

内 容：認知症家族の介護負担軽減を図る活動

◎若年性認知症交流会（市事業への協力）

実施件数： 2回

内 容：65歳以下の認知症家族の介護負担軽減・情報交換を図る活動

令和3年度 養護老人ホーム掛川市ききょう荘事業報告書

総括

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により外出や面会が断続的に制限される中、ききょう荘で生活する全ての利用者が健康的な生活を営むことができるようフレイル対策として「運動」「栄養」「口腔ケア」について各専門職が連携して身体機能の維持・改善に努めて参りました。

「運動」では行動自粛からの筋力低下が著しく表れてきたため、体操を日常生活の余暇活動やレクリエーションの中に取り入れてきました。「栄養」では週に1回栄養素の豊富な乳酸菌飲料を導入し、たんぱく質の摂取を心掛けるよう促し、栄養からの筋力低下防止を行いました。「口腔ケア」では歯科検診を実施することで口腔衛生管理表に基づいて個別指導を行い、利用者に対し健康講話を実施しました。

新型コロナウイルス感染症対策として取組み課題としてきたBCPを感染食中毒防止委員会が作成し、職員に対し研修を実施しました。令和4年3月のクラスター発生時には、マニュアルの重要性を強く感じ、実践を通じてマニュアルの改善点も確認できました。次年度はこの実例をもとに修正を行い、迅速に感染対応できるよう日々意識を高めていきたいと思えます。併せて自然災害についても防災訓練を計画通りに遂行し職員の意識向上、スキルアップを図りました。また屋外避難経路の階段舗装工事を行ったことで環境改善を図り避難誘導の安全を確保いたしました。

建物修繕として掛川市の計画に基づき、外壁塗装及び窓サッシ取替工事を行いました。その他、耐用年数を迎える厨房機器入替や浄化槽ポンプ交換工事などを行い、施設設備の維持管理に努めて参りました。

1. 相談援助

①入退所支援

- ・今年度の入所相談件数は28件ありましたが、入所に結びついたのは4件となりました。また退所件数は3件でした。相談件数に比べ入所者数が少なく、全体として入退所の動きが停滞しました。停滞の理由として、利用者が個別に抱える経済的問題、家族等との関係などの課題に加え、下半期における新型コロナウイルス感染症に関連する濃厚接触者の発生及びクラスターの発生が追い打ちをかけ、入退所の動きの停滞に拍車をかけました。事業目標としていた生活管理短期宿泊事業の活用も成果を上げることができておりません。次年度はこの事業を活用し新規入所に結び付けていきたいと考えます。

②個別処遇計画におけるマネジメントの確立

- ・コロナ禍において面会制限を余儀なくされる状況の中、切迫した問題のあるケースについては感染対策を実施し、面談を行いました。また保証人が遠方にお住まいのケースは

積極的にリモートを活用しコミュニケーションを図りました。

- ・個別処遇計画を滞りなく更新しました。今後はモニタリングの充実を図り、利用者の変化に対し柔軟に対応できるよう取り組んで参ります。

2. 生活支援

①日常生活の充実

- ・フレイル(虚弱)対策を重点目標にしましたが、新型コロナウイルス感染症対策として三密回避の観点から積極的に実施することができませんでした。そのような中でも規則正しい生活を営むため、新たに居室の清掃時間を設けるなど日課の改善に努めました。また通信カラオケのコンテンツにある体操メニューを活用することで、余暇活動に新しい発想を取り入れ、今までとは違った雰囲気の中で身体を動かす事ができました。他にもコロナ禍における行事運営の工夫、菓子販売の回数増、外出行事の代替えとして食事会を行って参りました。

②地域との交流

- ・地域住民との交流を伴う行事につきましては、感染状況を踏まえ規模を縮小し実施したため、イベントに伴う交流は断念せざるを得ませんでした。リモート活用し精華学園と交流会(全3回)を実施して参りました。
- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いた10月11日には更生保護女性会の皆様にご協力いただき、花壇整備を利用者と共に行いました。また同じく11月にはキャラバン・ストリングスによる演奏会を施設内で開催しました。

3. 健康管理

①フレイル対策

- ・コロナ禍における利用者の筋力低下を予防するため、フレイル対策の一環として「フレイル予防体操」を独自に考案し、日常生活のレクリエーションとして活用しました。2月には健康栄養教室を開催しオーラルフレイルについて利用者の皆さんに学んでいただきました。

②口腔機能の維持向上

- ・食事前の口腔体操は毎日継続して取り組んで参りました。また歯科検診を実施し、口腔衛生管理表に基づいて個別指導を行って参りました。また看護職員がオーラルフレイルについて研修で学び、日々の処遇に活かすことができました。

③感染症対策

- ・利用者の衛生的な生活環境の意識向上を目指し、日課の中に自室の清掃を行う時間を設定しました。また、中東遠総合医療センター感染症認定看護師から、ゾーニングや感染予防の観点などの指導を受けました。
- ・感染食中毒防止委員会が新型コロナウイルス感染症発生時のBCPを作成し、職員に対

し感染対応研修を開催しました。完成後間もなく施設内クラスターが発生し、マニュアルを実践していく上で見直すべき項目が判明しました。次年度はクラスター対応の経験を活かし、マニュアルの改定を行って参ります。

4.食生活・栄養管理

①フレイル対策

- ・週に1回、カルシウム・鉄・葉酸等の栄養素が豊富な乳酸菌飲料を導入しました。また、主食よりも副食（たんぱく質）の摂取を心掛けるよう利用者に栄養面からの筋力低下防止を促しました。2月には、健康栄養教室を開催し、医務・栄養士それぞれの視点からオーラルフレイルやバランスの良い食事摂取等、フレイルに関する内容を利用者に発信いたしました。

②多様なニーズへの対応

- ・ムセの多い利用者に耳鼻科医の指示のもと食事形態の変更を行いました。また行事の際は、やわらか素材を使用した料理を提供し、喜んでいただきました。その他、疾病に合わせた食事内容（糖尿病・脂質異常症・腎不全等）の提供に努めました。
- ・利用者が多様化する中、長年の課題である「ソフト食の提供ができる給食委託業者」の選定を行い、次年度は新たな委託業者と契約することになりました。変更に伴い年1回の嗜好調査では、おやつ希望回数や健康的な食事への興味等、今後の食事サービス向上に繋げられる項目を追加しました。今後は新規給食委託業者の強みを生かした「健康で楽しく美味しい食事」の提供に努めて参ります。

③安全衛生

- ・ガスを安全に取り扱うためLPガス安全点検表を導入し、毎月栄養士と担当相談員がチェック表の確認を行いました。その他、器具の衛生保持や食品を安全に保管するため、厨房大型機器（コールドテーブル・まな板消毒殺菌庫）の入れ替えを行い食中毒防止に努めました。

5.災害対策

①食材、備品の災害備蓄

- ・災害備蓄品の入替については滞りなく遂行しました。賞味期限が迫った非常食は施設の給食で使用することで食品ロス削減に取り組みました。なお一部の非常食は社会貢献活動の一環としてフードバンクへ寄付致しました。

②災害時に備えた職員研修の実施

- ・「消防用設備、災害時の注意事項、避難と感染予防のポイント、土砂災害マイ・タイムライン作成」といった防災教育を実施し、職員一人一人の土砂災害警戒区域への認識を深め、避難行動についても意見交換を行ってきました。

③災害時に備えた防災訓練の実施

- ・令和4年1～3月の防災訓練・防災教育はクラスター発生や利用者の体調不良により延期や中止を余儀なくされましたが、それ以外は総合防災訓練を中心にほぼ計画通り実施して参りました。

6.設備・環境整備

①ICTツールの活用

- ・6月に中公養栄養士研修会をリモートにて主催。また精華学園世代間交流会をリモートで3回開催。

②築41年の修繕と設備更新（主な内容）

- ・屋外避難経路階段舗装工事（5月）
- ・スプリンクラー圧力計交換工事（5月）
- ・浴室換気扇工事（6月）
- ・職員更衣室床リフォーム工事（8月）
- ・グランドマンホール枠修理（9月）
- ・LED照明リコール交換工事（10月）
- ・エレベーター修理（10月）
- ・厨房機器入替工事（11月）
- ・浄化槽ポンプ交換工事（11月）
- ・玄関正面階段補修工事（3月）

③掛川市年次計画による施設改善

- ・外壁改修、塗装窓サッシ交換工事（10月～2月）

7. 統計資料等

①【年間利用者数】

数/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月初利用者数	40	41	41	42	41	41	41	40	39	40	40	40	40.5
月初障害者加算人数	22	22	22	22	22	22	26	26	25	25	25	25	23.7

②【年間入退所者数】

(令和4年3月31日現在)

区分	入所	退所	現員
男性	2名	0名	26名
女性	2名	3名	16名
計	4名	3名	42名

③【年齢別構成】

(令和4年3月31日現在)

区分	64歳以下	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	計
男性	0名	4名	18名	4名	0名	26名
女性	1名	1名	2名	12名	0名	16名
計	1名	5名	20名	16名	0名	42名

男性平均年齢…73.11歳 女性平均年齢…80.8歳 全体平均年齢…76.6歳

④【在所期間別】

(令和4年3月31日現在)

区分	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	計
男性	2名	7名	5名	11名	1名	26名
女性	2名	5名	2名	1名	6名	16名
計	4名	12名	7名	12名	7名	42名

男性平均期間…4.6年 女性平均期間…6.9年 全体平均期間…5.4年

⑤【要介護認定状況】

(令和4年3月31日現在)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	計
男性	0人	1人	9人	1人	0人	11人
女性	0人	1人	3人	3人	0人	7人
計	0人	2人	12人	4人	0人	18人

8. 医療関係調書

【嘱託医】 岡田医院 岡田裕美子先生

【診察日】 毎月2回 木曜日

①入院状況

中東遠総合医療センター	2名	川口会病院	2名
磐田病院	0名	小笠病院	0名

②外来受診状況

《中東遠総合医療センター》

眼科	5名	整形外科	8名	泌尿器科	4名
外科	7名	呼吸器科	2名	消化器内科	5名
循環器科	0名	耳鼻科	1名	認知症	0名
脳神経内科	9名	脳外科	1名	皮膚科	0名
CT・MRI	1名	検査	6名		

《その他の医療機関》

岡田医院	23名	増田内科循環器科	9名	葛ヶ丘歯科医院	19名
とやま眼科	17名	掛川海谷眼科	10名	あつみクリニック	30名
高松クリニック	12名	磐田病院	6名	小笠病院	27名
東海クリニック	3名	川口会病院	111名	松田病院	3名
うめず脳神経外科	1名	きたはらクリニック	6名	聖隷浜松病院	8名
くにお皮膚科	4名	佐野医院	2名	おの耳鼻科	15名
訪問看護(川口会)	4名				

③定期検診

- ・ 9月 聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・身長・体重
- ・ 3月 聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・心電図・胸部レントゲン・身長・体重

④インフルエンザ予防接種

- ・ 10月、11月実施

⑤コロナワクチン接種

- ・ 1回目…令和3年5月、6月、7月
- ・ 2回目…令和3年6月、7月
- ・ 3回目…令和4年1月、2月

9. 防災訓練実施状況

月日	種 類	訓 練 内 容	参加者
4月27日	消火訓練 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・水消火器の使用 ・消防用設備の確認 	職員 10名
5月28日	避難誘導訓練 (夜間想定)	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の火災を想定した避難 	職員 8名 利用者 40名
6月28日	情報伝達訓練 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛け、館内放送、送信対応 ・視聴覚教材による消防用設備の確認 	職員 9名 利用者 32名
7月23日	避難誘導訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害を想定した避難 	職員 9名 利用者 32名
8月30日	消火訓練 視聴覚教育	<ul style="list-style-type: none"> ・水消火器の使用 ・避難のきまりの確認。 	職員 9名 利用者 29名
9月27日	避難誘導訓練 (日中想定)	<ul style="list-style-type: none"> ・火災を想定した避難 	職員 9名 利用者 26名
10月25日	避難誘導訓練 (夜間想定)	<ul style="list-style-type: none"> ・火災を想定した避難 	職員 9名 利用者 29名
11月23日	情報伝達訓練 発電機の操作訓練 視聴覚教育	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛け、館内放送、送信対応 ・発電機の操作方法についての習得 ・消防庁の動画の視聴 	職員 9名 利用者 31名
12月14日	総合防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導訓練（夜間想定） ・情報伝達訓練（署員との問答） ・消火訓練（水消火器の使用） 	職員 8名 地域 1名 署員 3名 利用者 33名
1月	延期	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ濃厚接触者発生への対応のため。 	
2月21日	避難誘導訓練 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害想定 ・土砂災害マイ・タイムライン作成 	職員 8名 利用者 30名
2月25日	避難誘導訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・震度 5 強の地震を想定した避難 	職員 5名
3月	中止	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ陽性者クラスター発生の対応のため。 	